

2025年度 自己評価公表

社会福祉法人 聖隸福祉事業団

聖隸こども園こうのとり東

聖隸こども園こうのとり東 教育・保育理念

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法・児童憲章にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の保育・教育を目指します。

*愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。

*一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。

*自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。

*在園・地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

「新保育所保育指針に基づく自己チェックリスト100」を使用し、職員が自己評価を行いました。自己評価の結果から見えてきた、園としての課題を次年度の取り組みにつなげていきたいと思います。

	自己評価・課題
第7章 職員の資質向上 ～社会性、一般常識～	「心配りのあるマナーやエチケットを会得し、励行している」 それぞれ心配りのある接し方をしているつもりだが、学生時代等にコロナ禍で相手との関わりが希薄していた職員も居たりする中で、全職員が自信を持ってマナーやエチケットが身に付いているということは難しかった。その為、日頃から気の知れた職員同士でも社会人としてのマナーやエチケットを心がけて関わる、必要な場合には声を掛け合えるような集団でいれるよう努める。
第7章 職員の資質向上 ～保育士等の意欲 ・姿勢～	「指定された研修以外に、自分で知り得た研修への参加伺いができる」 「研修会などに積極的に参加し、保育界の動向に注意を払っている」 年間を通して職員自身が興味のある研修を自分で見つけ、参加するようにしている。しかし、常日頃忙しい中で研修に行く時間も自分ではなかなか見出せない職員もいる為、各会議の時間や土曜日に職員一同が介して参加し、同じ動画を視聴したり、講師を呼んで職員みんなで同じ学びを深められる機会を作っている。
全体として	全職員を対象にチェックリストを7月頃に行い、集計することで園全体としての強みや弱い部分が見えてきたことで、9月に職員同士でディスカッションを行った。強い部分は自信を持って伸ばしていくつつ、弱い部分の課題をそれぞれの言葉で語り合うことで、各々が感じていることに共感したり、課題解決に向けて一緒に考えたりすることができた。また、来年度は異年齢保育が始まるということで、異年齢保育に対しての学びを深めるために本を読んだり、動画を観たりと、職員が同じように学びを深めることで、同じ方向を向いて歩みを進めているという実感を持てた。今回の経験を活かし、研修の取り入れ方や、職員同士が風通し良くなんでも言い合える関係を築いていくことで、保育の質が上がっていいく実感を持て、引き続き学びを深めていける環境を整えていきたい。